

JIS

自動車用安全ガラス試験方法

JIS R 3212 : 2021

(FGMAJ/JSA)

令和 3 年 4 月 20 日 改正

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本産業標準調査会標準第一部会 構成表

	氏名	所属
(部会長)	酒井 信介	横浜国立大学
	秋山 進	元株式会社デンソー (公益社団法人自動車技術会)
(委員)	安部 泉	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
	市川 直樹	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	伊藤 弘	国立研究開発法人建築研究所
	大瀧 雅寛	お茶の水女子大学
	奥野 麻衣子	三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社
	木村 一弘	国立研究開発法人物質・材料研究機構
	木村 たま代	主婦連合会
	佐伯 誠治	一般財団法人日本船舶技術研究協会
	佐伯 洋	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
	椎名 武夫	千葉大学
	寺家 克昌	一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会
	千葉 光一	関西学院大学
	寺澤 富雄	一般社団法人日本鉄鋼連盟
	中川 梓	一般財団法人日本規格協会
	奈良 広一	長野計器株式会社
	西江 勇二	一般財団法人研友社
	久田 真	東北大学
	藤本 浩志	早稲田大学
	星川 安之	公益財団法人共用品推進機構
	棟近 雅彦	早稲田大学
	村垣 善浩	東京女子医科大学
	山内 正剛	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所
	山田 陽滋	名古屋大学
	和 遼 健 二	一般社団法人日本自動車工業会

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：昭和 54.7.1 改正：令和 3.4.20

官 報 掲 載 日：令和 3.4.20

原 案 作 成 者：板硝子協会

(〒108-0074 東京都港区高輪 1-3-13 NBF 高輪ビル TEL 03-6450-3926)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12 三田 MT ビル TEL 03-4231-8530)

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第一部会 (部会長 酒井 信介)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 国際標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	2
4 試験項目	2
5 試験場所の条件及び試験方法	2
5.1 試験場所の条件	2
5.2 厚さの測定	3
5.3 破砕試験	3
5.4 耐衝撃性試験	7
5.5 耐貫通性試験	9
5.6 ヘッドフォーム（人頭模型）衝撃試験	10
5.7 耐摩耗性試験	17
5.8 耐熱性試験	24
5.9 耐光性試験	25
5.10 耐湿性試験	25
5.11 可視光線透過率試験	26
5.12 透視ひずみ試験	27
5.13 二重像試験	29
5.14 耐薬品性試験	31
5.15 耐燃焼性試験	33
5.16 耐候性試験	35
5.17 温度依存性試験	36
5.18 弾力性試験	36
5.19 付着性試験（碁盤目試験）	37
附属書 JA（規定）安全ガラスの光学的特性及び耐光性についての試験領域	38
附属書 JB（参考）JIS と対応国際規格との対比表	53
解 説	56

まえがき

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 12 条第 1 項の規定に基づき、板硝子協会（FGMAJ）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS R 3212:2015** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

自動車用安全ガラス試験方法

Test methods of safety glazing materials for road vehicles

序文

この規格は、2015年に第4版として発行された **ISO 3537**、1997年に第3版として発行された **ISO 3538**、2016年に第4版として発行された **ISO 3917**、及び2016年に第2版として発行された **ISO 15082** を基とし、我が国での法規制などへの対応のため、技術的内容を変更して作成した日本産業規格である。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。変更の一覧表にその説明を付けて、**附属書 JB** に示す。また、**附属書 JA** は対応国際規格にはない事項である。

1 適用範囲

この規格は、主として自動車用安全ガラス（以下、安全ガラスという。）の試験方法について規定する。

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 3537:2015, Road vehicles – Safety glazing materials – Mechanical tests

ISO 3538:1997, Road vehicles – Safety glazing materials – Test methods for optical properties

ISO 3917:2016, Road vehicles – Safety glazing materials – Test methods for resistance to radiation, high temperature, humidity, fire and simulated weathering

ISO 15082:2016, Road vehicles – Tests for rigid plastic safety glazing materials（全体評価：MOD）

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、**ISO/IEC Guide 21-1**に基づき、“修正している”ことを示す。

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格のうちで、西暦年を付記してあるものは、記載の年の版を適用し、その後の改正版（追補を含む。）は適用しない。西暦年の付記がない引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS B 7502 マイクロメータ

JIS B 7754 キセノンアークランプ式耐光性及び耐候性試験機

JIS D 0205 自動車部品の耐候性試験方法

JIS K 2202 自動車ガソリン

JIS K 8102 エタノール（95）（試薬）

JIS K 8891 メタノール（試薬）

JIS R 3211 自動車用安全ガラス

JIS Z 8401 数値の丸め方